伝えていきたい戦争の記憶

～市民が語る戦争体験記集～

綾　瀬　市

2005年8月

平和の花「ピースバラ」は、「ピース（平和）」という品種のフランスでつくられたバラのことです。
第二次世界大戦の終わりを記念して名前が付けられ、「愛と平和のしるし」として世界の人々に愛されています。

伝えていきたい戦争の記憶
綾瀬市

伝えていきたい戦争の記憶

～市民が語る戦争体験記集～

綾　瀬　市

2005年8月

「伝えていきたい戦争の記憶」の発刊にあたり

昭和20(1945)年8月15日、数多くの犠牲者を出し、あらゆるものを奪ってしまった先の世界大戦が終わりを告げました。あれから今年で60回目の夏を迎えました。60年という歳月は、戦争を徐々に「遠い記憶」とさせているように感じます。しかし、私たちはどんなに歳月を重ねても、この戦争の悲惨な記憶を決して風化させてはなりません。

世界唯一の核被爆国である日本において、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現は、全国民の共通の願いですが、世界においてはいまだ多くの核兵器が存在し、世界の平和と人類の生存に深刻な脅威を与えつづけています。

本市では、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願い、昭和59(1984)年に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。それ以来、宣言文を公共施設に掲げるとともに、核保有国に対してメッセージを発信し、さらに、親子平和映画会の開催など様々な平和普及事業を展開し、平和意識の向上に努めています。

加えて、本年は戦後60年事業として、多くの戦争体験を後世に確実に伝えていくために、市民の皆様から寄せられた貴重な体験をとりまとめ、ここに発刊するはこびとなりました。

本書が、一人でも多くの市民の方々に読まれ、平和の尊さを語り継ぐための一助としていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、発刊にあたりましてご協力いただきました多くの市民、団体の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成17年8月

綾瀬市長　笠　間　城　治　郎

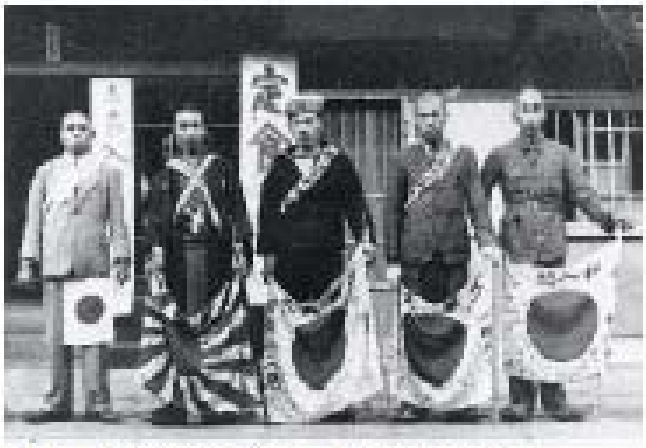

写真1　1932(昭和7)年頃　入営する兵士たち

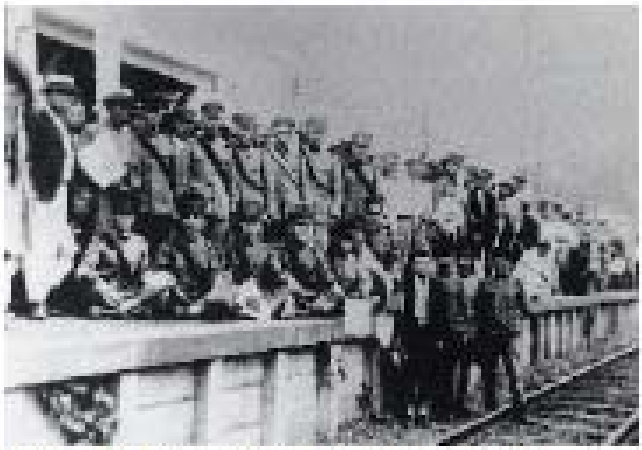

写真2　1932(昭和7)年頃　召集された兵士たち
長後駅にて

写真3　1944(昭和19)年　戦場へ向かう兵士へ贈られた日の丸の寄せ書き（深谷）
右上に寺尾観恩寺のオタスケ観音が描かれている。また高座工廠で働く技官や、台湾出身の少年工の名前も見える。

写真4　1944(昭和19)年　厚木航空基地の滑走路に並ぶ302航空隊の隊列
前列に雷電、後ろに零戦、さらに後方に彗星・月光の隊列が続く。
厚木海軍航空隊は、1943年、首都圏防衛を目的として開隊した。44年には新たに特設部隊の302航空隊が編成され、厚木基地に配備された。

写真5　蟹ケ谷の防空壕（吉岡遺跡群）
丘陵の傾斜面に横穴が掘られている。

写真6　1943(昭和18)年　防空ズキンとモンペ姿で防空演習に参加する（寺尾）

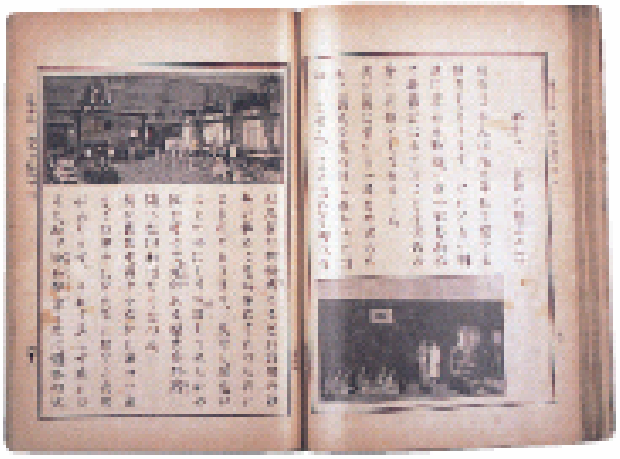

写真7　1940(昭和15)年　小学校高等科の修身教科書
国民の務めとして、徴兵検査が説明されている。

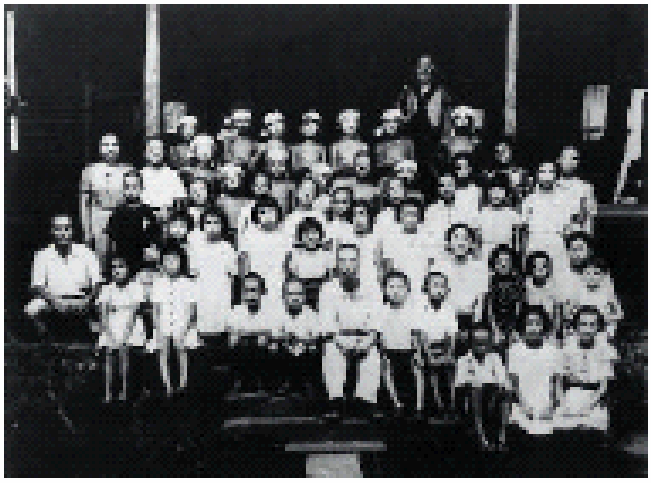

写真8　1944(昭和19)年　横須賀市から鎌倉村へ疎開した
鎌倉国民学校の子供たち　覚光寺にて（上土棚）
子供たちは寺院や青年倶楽部など7か所で集生活を送り、ドングリ拾いや農作業の手伝いなどをした。

写真9　1945(昭和20)年8月30日　厚木基地に降り立った連合
国軍最高司令官ダグラス・マッカーサー

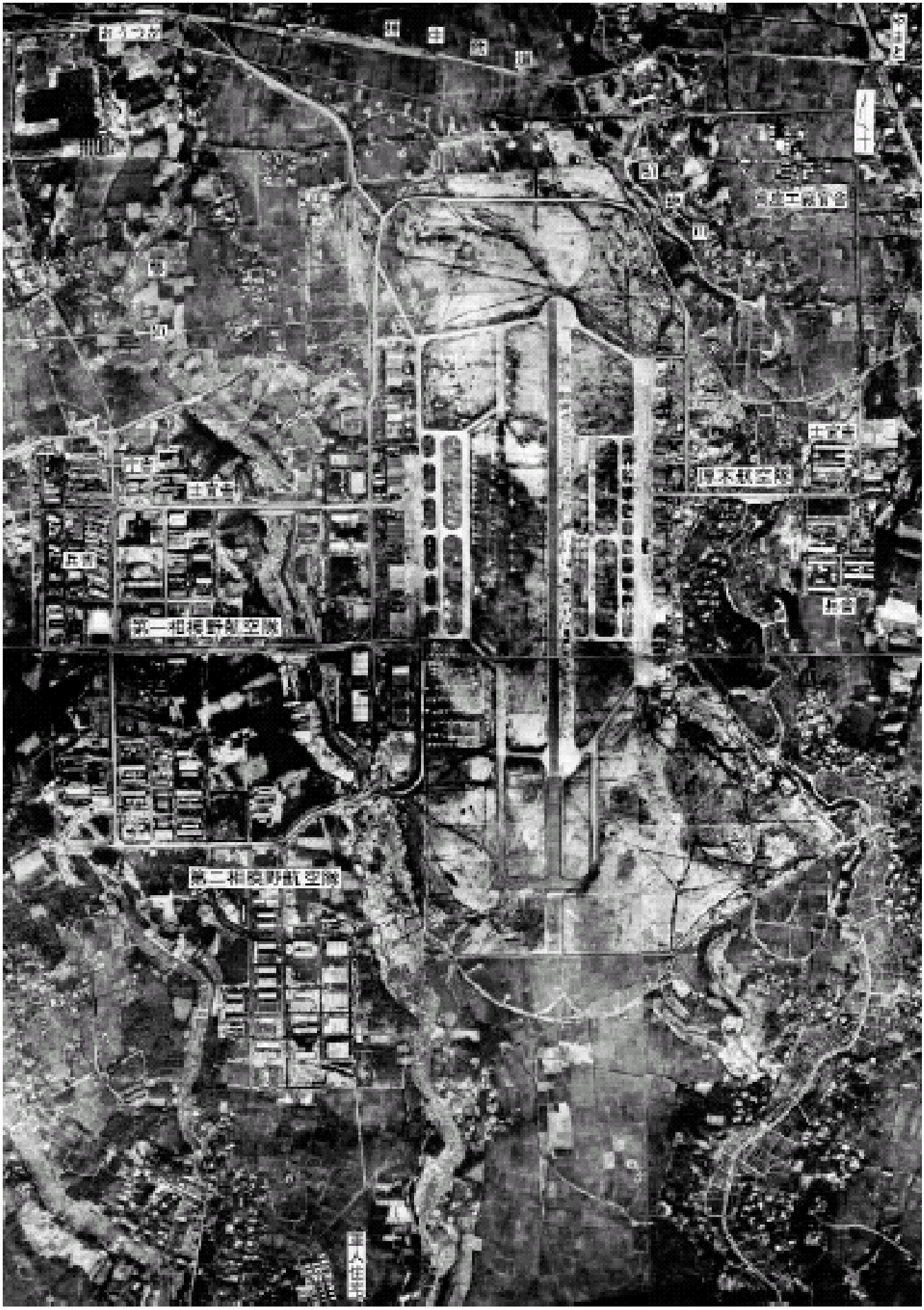

写真10　厚木航空基地とその周辺　1946(昭和21)年　米軍撮影　（施設名は筑摩書房で加筆）

戦後の撮影であるが、日本海軍の施設がまだそのまま残されており、基地の概要がわかる。滑走路の西側（綾瀬市側）に航空機の整備兵を養成する第一・第二相模野航空隊が、東側（大和市側）に厚木航空隊（のちに302航空隊）が配備された。

目　次

第Ⅰ部　伝えていきたい戦争の記憶

第一章　戦時下の子どもたち

小学校低学年が見た太平洋戦争……高橋スミ子　12
記憶に残された戦争体験……山本二美人　14
静かな山里にも戦火の響き……平本　芳人　15
子供達の夢を奪った戦争体験……酒井かつ子　16
戦争と集団疎開……小森　正男　17
遠州灘夜間の艦砲射撃の恐怖……佐藤　好明　18
終戦の思い出……中西トキエ　19
少女の見た銃後……木部りつ子　20

第二章　空襲を目の前にして

東京空襲を体験して……長坂まき子　22
東京大空襲下の学園生活……吉田　　弘　23
戦争体験記……佐藤　初枝　24
忘れられない炎の夜……飯田　綾子　26
水戸の大空襲に想う……山崎エイ子　27
長岡空襲を体験して……知念　　品　28

第三章　戦時下で働く

戦時下の青春……青木まき子　30
銃後の女性の戦争体験……安藤喜久江　31
戦争と人間……佐久間清七　32
貧しく辛かった少年時代……關　　久司　33
激動の時代を体験し平和を願う……安達　ハル　34
敗戦を見つめて……横澤　昭文　35
帰国の旅路……芦田　　薫　36

第四章　戦争所感

第二次大戦を振り返って……長谷川時秋　38
"米兵捕虜の虐待"を想う……鎌田　峰義　38

痛恨の思い出 ……江川　正雄　39
相模野海軍航空隊から米軍厚木基地へ ……比留川政雄　40
忘れようとしても忘れられない ……新倉　英雄　42
夜中、目をさまして思う ……比留川榮子　43
引揚船“故国を前に” ……土肥　生磨　44

第五章　軍隊・戦地にて

零下40度の北満で軍事教練 ……藤井　昂　46
私達の戦争体験 ……古山　周一　47
私の中国戦線体験 ……笠間　秀雄　48
日本海軍の壮絶な終焉 ……安藤　健治　49
軍隊生活という青春時代 ……飯島幸次郎　50
あの日、私はどうして生きのびたか ……山中　榮　51
戦争の悲惨を繰り返すな ……三浦　福好　52
回想 ……末吉　輝保　54
シベリア抑留体験（バイカル湖畔） ……及川　勝郎　56
戦争体験記 ……小林　一男　58
苦難の撤退作戦 ……池田　雄　60
私の十年間の戦歴（満州三年、中国七年） ……清水　貞三　61
千切れ雲 ……見上　睦　62
六十数年前の激しくも悲惨な体験記憶 ……西永　一正　64
戦友の面影 ……佐藤　友二　65
多かりし陸戦隊 ……内野　實　66

第Ⅱ部　平成16年度核兵器廃絶平和都市宣言20周年記念公演
「戦争体験談」 ……71
比留川信次郎、加藤　貢、栗原タカ、青木美三男

資　料　核兵器廃絶平和都市宣言20年の歩み ……79
編集にあたって ……83